令和７年度　やまがた社会貢献基金助成事業　活動報告書

団体名	出羽庄内市民ミュージカル若手塾		
事業名	若者世代に伝える市民ミュージカル公演「世界一の水族館～加茂水族館物語」		
助成事業区分	（協働助成事業・テーマ希望型） （イオン・さくらんぼ WAON 子どもの健全育成支援事業）		
団体の所在市町村	鶴岡市	事業費	2,541,285 円
		うち助成金額	1,000,000 円
事業実施期間	令和７年６月 11 日～令和８年１月 31 日まで		

事業目的・実施内容

（事業目的）

コロナ前には、学校を中心に盛んだった演劇表現活動は、コロナが収まってからは、完全復活とはいえない状況である。一方で、若い世代を取り巻く環境は、異なる文化の中で他者の気持ちを推し量り自分を表現する力が、より必要とされるようになっている。市民参加型ミュージカルで、「表現、想像、生きる力」を養うことを目的に活動している。

人口減少が進み少子化がすすむ地域で、一時は閉館寸前になったにもかかわらず、世界一の水族館となった「加茂水族館」（現・「東北エプソンアクアリウムかもすい」）の復活劇で、年代に関わらず元気をもたらす話になると考え、ミュージカル創作をして公演した。

（実施内容）

これまでもご縁があるプロに台本作成と作曲を依頼、令和７年３月、名誉館長・現館長に制作伊藤と台本作家坂口氏が取材・館内見学をして、構想を練る。台本完成は５月末、作曲家に作曲依頼。曲は、月二曲ずつ出来、歌・ダンスの稽古も一曲ずつ、全10曲が、10月初めに揃った。土・日・休日・長期休みなどを通して、ジュニアと社会人・遠方の客演者・地元の客演団体などと連携しながら稽古を重ねた。平行して、スタッフ業者と打ち合わせ。公演は、11月23日（日）鶴岡市中央公民館大ホールで、観客400名（内、ジュニア世代小中高生20名、招待客54名）。ジュニア世代の観客が少なかったのは、私達の準備不足だった。観劇したジュニア1名が、新たにメンバーとなった。ほとんどのお客様が、感動した、涙涙だったなど喜んでくれたが、助言もあった。

観客からのアンケートは、66枚回収。

評価（①すごく良かった。52 名　②まあ、よかった。6名　⑥無記入6名）







事業の成果	※公演終了後、「鶴岡市芸術祭」の最高賞「大賞」を受賞できた。イオンさんはじめ多くの方々のおかげと感謝したい。 「日本一小さな加茂水族館の辿った波乱の歴史。そのストーリー性が素晴らしく感動的であった。社会問題、環境問題などを訴える児童に強い発信力があり、鶴岡人、村上龍雄氏の人間描写に心揺さぶられる。美しく心温まるストーリーと舞台。「生きる」メッセージも織り込まれキャスト・スタッフ一丸となって創り上げたこの作品は、郷土を見つめ愛するきっかけともなるだろう。感動と大きなエネルギーが満席の会場を満たしていた。」 **10代観客のアンケート回答**の好評価は、出演若手のモチベーションアップにつながった！ ①話がおもしろかったから少しやってみたくなった。（10代女性） ②ダンスがすごい。せりふをおぼえるのがたいへんだと思った。（10代女性） ③キャスト一人ひとりの演技・声・歌に心をうたれました！表情豊かで、観客も一緒になって楽しめる舞台でした。とても楽しい舞台でした。（10代男性）
今後の展望	① 10代までのジュニア世代の来場人数を増やしたい。若者世代に、「加茂水族館復興をＰＲする」という目的があるが、ジュニア世代の来場者は、令7年度は、全体の約10%だった。人数的には不足だった。次回は、ＰＲ時期を早め、ポスター・チラシの制作・配布も早めに、少子化の中でも、増やせるように努力する。 ② 令7年度は、予算の関係で、ポスターを制作しなかった。今年度公演は、7月中にポスター制作をして、広く情報がいきわたるように計画した。（チラシ予算を縮小） ③ チケットも7月中に印刷、販売開始する。 ④ 小中学生の観劇参加数100人を目標にして、学校関係にも相談し、手を尽くしたい。 ⑤ リニューアルされたかもすいで、観光客・他地域の客にPRしたいので、ダンスをお客様に披露する提案をしたが、混雑することが予想される休日は難しい。港に着岸するクルーズ船客「かもすい」のPRを兼ねて、ソング＆ダンス「加茂水族館ナンバーワン」と海ごみ回収の「決意」などを船客に披露したいと、県の担当課（国際観光・高付加価値創出課）に要請している。 リニューアルオープンした「東北エプソンアクアリウムかもすい」は、今の所お客様は多い。名誉館長村上さんが、「リニューアルして、一年くらいは、お客さんが入るが、そのあとは、しばらく低迷する。その期間をどう乗り切るかが、経営の手腕だ。」とおっしゃっていた。これは、どんな企業にもあてはまるテーマである。そういう経営者としてのご苦労と努力が有ってこそ今の水族館の隆盛があるということを若い世代に伝えたい。そのために、台本作家と話し合い、改訂を了解いただいき新しい場面をつけて発表する。





団体概要

団体名　出羽庄内市民ミュージカル若手塾
代表者　大井　卓磨

私達は、１０代から７０代までのメンバーが、山形庄内の若者世代が元気になるミュージカルを創って、発表しています。

令和７年度山形県ＮＰＯ活動促進補助事業

収支精算書

事業の名称	若者世代に伝える市民ミュージカル公演「世界一の水族館～加茂水族館物語」
団体名	出羽庄内市民ミュージカル若手塾

１　収入の部

（単位：円）

区分	精算額	内容
県補助金	1,000,000	令和７年度山形県NPO活動促進補助金
当該事業による収入	472,500	チケット販売
その他収入	932,000	協賛
自己資金	136,785	
合計	2,541,285	

２　支出の部

（単位:円）

区分	精算額	内容
謝金	1,624,000	作曲謝金・総合演出謝金・舞台監督謝金等
旅費	324,217	舞台監督他旅費・宿泊費
印刷製本費	81,423	プログラム・チケット製版印刷代
消耗品･材料購入費	61,123	大道具用壁紙等
通信運搬費	4,270	資料送料
使用料	291,782	体育館・照明・音響機使用料
(委託費)	140,900	照明オペレータ・録音
その他(振込料金)	1,760	振込手数料
スタッフ食事購入費	11,810	スタッフ食事代
合計	2,541,285	